

2007年10月 図書館展示
展示期間:10月15日~10月30日
展示場所:図書館ブラウジングルーム

日本語と歌・オペラ

~ からの花から夕鶴へ ~

團伊玖磨 / 花の街、ひぐらし、スサノオ、夕鶴



11月7日に行われる音楽研究所
新プロジェクト・プレ・イベントに
先立ち、山田耕筰と團伊玖磨
のオペラや歌に関する資料の
展示を行います。



山田耕筰 / からの花、この道、赤とんぼ、黒船、あやめ他

目次

山田耕筰	p.1-2
團伊玖磨	p.3-5
パネル展示資料	p.6

山田耕筰 (やまだ こうさく 1886-1965) ~~~~~

東京音楽学校で声楽を専攻した後、1910年から約3年間ベルリン高等音楽院でカルル・ウォルフ、マックス・ブルッフについて作曲を学ぶ。帰国後、日本初の交響楽団を結成。1917年から1919年にかけてアメリカ演奏旅行。1922年に北原白秋と雑誌『詩と音楽』を創刊して詩と音楽の融合をはかり、日本歌曲の創作に努めた。《からたちの花》《この道》《赤とんぼ》といった日本語の抑揚に即した叙情歌曲は広く愛唱されている。日本人として初めての交響曲である《かちどきと平和》をはじめ、管弦楽作品、室内楽、ピアノ曲など器楽曲も多い。また、日本楽劇協会を設立し、オペラを指揮、紹介、自らも多くのオペラを創作した。教育者として、近衛秀麿、成田為三、大中寅二など多くの作曲家を育てた。また、新劇運動の振興に尽くし、舞踊詩を提唱するなど、日本の洋楽界草創期に大きな影響を与えた。

歌劇

《墮ちたる天女》

1912年作曲。初演は1929年12月1日 歌舞伎座12月興行(東京)。作詞は坪内逍遙。

展示資料

『墮ちたる天女 一幕二場の樂劇：抜萃曲集』

日本交響楽協会出版部：発売元：共同楽譜販賣所，昭和4 [1929] 請求記号 F17-535

録音資料

『山田耕筰の遺産 劇場音楽編』 請求記号 XD34347

《あやめ》

清元の「明鳥花濡衣」に材を採った浦里、時次郎の心中物語によるパーシー・ノエルの台本。1931年パリのピギャール座に招聘され、委嘱作品のオペラ・バレエ Ayame[あやめ] を作曲するがパリ初演は実現しなかった。初演は1971年4月24日日本楽劇協会主催の公演(大阪フェスティバル・ホール、5月19、20日東京日生劇場)。1998年9月27日、日生劇場で原語初上演。(台本は英語。パリでは仏語に訳詞されて上演の予定だった。)それまでの日本での公演は、日本語によるものだった。

《夜明け(のちに黒船と改題)》

1939年作曲。初演は1940年11月28日～12月1日、東京宝塚劇場。パーシー・ノエルの台本。

展示資料

パーシー・ノエル原作；山田耕筰訳編並作曲『黒船：歌劇 = Black ships』
音楽之友社，1954 請求記号 F6-165

パーシー・ノエル原作；山田耕筰訳編並作曲

『夜明け 幕末日本の抒情物語：三幕五場・序景付』 清教社，1940 請求記号 F8-963

参考資料

山田耕筰作曲『夜明け』 日本楽劇協会，[1940?] 請求記号 F17-532

録音資料

森正指揮、東京交響楽団、他 1960年録音 請求記号 XD4882-3、XD42450-1

《香妃》

1981年12月2日初演。東京文化会館大ホール。

中国との平和を希う心から創作を決意した。長与善郎著「乾隆御賦」を劇作し、ピアノ版を作曲したのは1947年のこと。オーケストレーションを始めたが病に倒れ、中断された。その後10年が経ち、

弟子である團伊玖磨がオーケストレーションを進めた。1965年に山田耕筰が他界した後も作業は続き、着手から30数年が費やされ、ようやく完成された師と弟子の珠玉の作品。

展示資料

山田耕筰 十七回忌追善記念公演『香妃：歌劇：序景 四幕七場』日本楽劇社、1960 請求記号 F1-327

『山田耕筰全集27 楽劇・香妃(ヴォーカルスコア)』第一法規出版、1964 請求記号 A2-591

歌曲

(からたちの花)

1925年1月10日東中野にて作曲。作詞は北原白秋。

「私の曲のうちでも、この曲ほど日本語を生かしているものは少ない」と本人が語っている。幼少の折に枳殻の垣根に囲まれた工場で重労働をしていた耕筰は、白秋の詩の内に自分の幼時を見つめてこの曲を歌いだした。

展示資料

『からたちの花』

セノオ音楽出版社、大正14[1925] 請求記号 F15-901

録音資料

『山田耕筰の遺産 歌曲編 ~、』 請求記号 XD34343~34346、XD43998 他

(赤とんぼ)

1927年1月29日作曲。作詞は三木露風。

参考資料

『山田耕筰作品全集 第8巻(独唱曲4)』春秋社 請求記号 A10-030

録音資料

『山田耕筰の遺産 歌曲編 ~、』 請求記号 XD34343~34346、XD 43998 他

(この道)

1927年2月24日作曲。作詞は北原白秋。

「これは(からたちの花)の妹です。からたちの花にもました美しい綾衣を織り与えてください」 白秋はこのような言葉を添えてこの詩を山田に寄せた。「世の誰にもまして母を思う心切」と述懐する山田が亡き母の愛と追憶にひたりつつ歌い出た名歌。

参考資料

『山田耕筰作品全集 第8巻(独唱曲4)』春秋社 請求記号 A10-030

録音資料

『山田耕筰の遺産 歌曲編 ~、』 請求記号 XD34343~34346、XD 43998 他

その他の展示資料

山田耕筰著『耕筰樂話』清和書店、1935 請求記号 J103-263

日本楽劇協会編『この道：山田耕筰伝記：十七回忌記念出版』恵雅堂出版、1982 請求記号 C34-320

参考資料

山田耕筰著『歌の唱ひ方講座 第1講～第4講』日本交響楽協会出版部、1928 請求記号 C15-636～639

山田耕筰編『音楽 中学校用』教育図書、1956 請求記号 C30-838

山田耕筰編；山田耕筰(ほか)著『音楽：中学校用。1』教育図書、1956 請求記号 C15-567

山田耕筰編『音楽 中学校用 2 伴奏編』教育図書、1957 請求記号 C30-976

團伊玖磨(だん いくま 1924-2001)

オペラ《夕鶴》をはじめ、《ぞうさん》《やぎさんゆうびん》《ラジオ体操第二番》《花の街》など多くの作品が親しまれている国民的作曲家。大田黒元雄の『西洋音楽史物語』を読み、12歳で作曲家になると決めた少年は、東京音楽学校(後の藝大)を経て、陸軍戸山学校軍楽隊で小太鼓と編曲作業を担当し作曲家への道を歩んでゆく。師は、山田耕筰、諸井三郎、近衛秀麿、下総院一、橋本國彦、細川碧ら。七つのオペラと六つの交響曲を創作の柱とし、吹奏楽では《祝典行進曲》、合唱では《筑後川》などすべてのジャンルへ愛される作品を残した。

作風は、大陸的でおおらかな時間の流れと歌謡性、オーソドックスではあるがゆるぎない構造美を聴き取れる。その創作姿勢は前衛の波に揺らぐことなく生涯貫かれた。世界各地を旅行し、なかでも中国をこよなく愛した團は、訪中数十回、日中文化交流協会の会長を務めるなど中国との関わりが深かった。27巻に及ぶ随筆集『パイプのけむり』シリーズなど著書多数。2001年5月、旅行先の中国・蘇州で急逝。

歌劇

(夕鶴)

初演:1952年1月30日、大阪朝日会館。

日本民話「鶴の恩返し」が題材。海外公演を含め、650回を超える上演数や数々の受賞歴がある。

展示資料

夕鶴 二期会オペラ公演 パンフレット

オペラ1幕 1977年3月20日 神奈川県民ホール

夕鶴 二期会オペラ公演 パンフレット

オペラ1幕2場 1979年11月9日-11日 日生劇場

夕鶴 チラシ

1991年7月9日 府中の森芸術劇場どりーむホール

團伊玖磨 お話と音楽 チラシ

夕鶴より、「アリア(私の大事な与ひょう)」、「間奏曲」、「アリア(さよなら)」

1992年9月15日 中新田パッハホール

夕鶴 チラシ

1996年2月11日 よこすか芸術劇場

1996年2月19日 新宿文化センター

夕鶴 チラシ

1996年10月5日 愛知県芸術劇場大ホール

新国立劇場オペラ 夕鶴 チラシ

2000年12月10日 オーバード・ホール

参考資料

木下順二作; 團伊玖磨作曲『夕鶴: 歌劇』 未来社, 1955 請求記号 F0-220

團伊玖磨作曲, 木下順二作、英訳: Dorothy G. Britton、ドイツ語訳: E. Hartogs“Yuzuru = The twilight heron : opera in one act” HartogsBoosey & Hawkes, c1988 請求記号 H29-284

團伊玖磨『夕鶴』 全音楽譜出版社, 1990 請求記号 F16-024

録画資料

團伊玖磨指揮、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団、他 1994年録画 請求記号 VD3378

録音資料

團伊玖磨指揮、東京フィルハーモニー交響楽団、他 1959年録音 請求記号 XD4691-2
若杉弘指揮、読売日本交響楽団、他 1970年録音 請求記号 XD37539-40
團伊玖磨指揮、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団、他 1994年録音 請求記号 XD31049-50

《聴耳頭巾》(木下順二作)

初演は1955年。大阪労音の委嘱により作曲された。“力強い土のリズム、響き渡る野の歌”と團自らが形容している。

参考資料

團伊玖磨; 作 木下順二『聴耳頭巾: 歌劇三幕 / 團伊玖磨; 全音楽譜出版社, 1992 請求記号 F18-517

《ひかりごけ》(武田泰淳作)

1972年 大阪国際フェスティバルの公演として初演。

北海で遭難した漁船員が、生きるために仲間の肉を食べる「第一幕・マッカウス洞窟の場」と、生き残った船長が法廷で裁かれる「第二幕・法廷の場」からなる。

参考資料

團伊久磨『ひかりごけ(武田泰淳作)』全音楽譜出版社, [1984] 請求記号 F12-626

《ちゃんちき》(水木洋子作)

初演:1975年10月13-14日 東京文化会館。

題材は日本の民話。團は、合唱の役割は特定の役割でなく、ギリシャ劇でのコロスや能楽の地謡など、東西で発生したオペラと能楽の融合を意図した手法を図った。小型のオーケストラの中に数多い伝統的打楽器が活躍し、独特な色彩をたちのぼらせている。題名の「ちゃんちき」も日本古来の金属製打楽器の名である。

展示資料

ちゃんちき 初演時のパンフレット

二期会 昭和50年度<第30回記念>芸術祭主催公演
1975年10月13日-14日 東京文化会館(初演)

ちゃんちき パンフレット

1978年5月16日-17日 東京文化会館

ちゃんちき 二期会名古屋支部創立10周年記念公演パンフレット

1980年10月30、31日 名古屋市民会館大ホール

ちゃんちき 大阪国際フェスティバル協会 チラシ

1991年4月18、20日 フェスティバルホール

ちゃんちき パンフレット

第7回神奈川芸術フェスティバル 2000年12月8日 神奈川県民ホール

参考資料

團伊玖磨 (水木洋子作)『ちゃんちき』全音楽譜, 昭和55 [1980] 請求記号 F6-049

《素戔鳴(すさのお)》

初演:1994年10月30日 神奈川県民ホール。

「古事記」「日本書紀」を題材としたオペラ。構想に10年、作曲に3年の歳月が費やされた。台本は

古文体で書かれている。

第1回神奈川県芸術フェスティバル参加 県民ホール会館二十周年記念

展示資料

素戔鳴(すさのお) パンフレット プログラム
1994年10月30日 神奈川県民ホール
1994年11月21日 よこすか芸術劇場 ほか

素戔鳴(すさのお) パンフレット
1996年3月21日 島根県民会館
1996年3月24日 出雲市民会館
神話の里 島根公演 = 松江・出雲での上演

素戔鳴(すさのお) 雑誌記事
『アサヒグラフ 1994.12.2号』p.32-41 初演時の写真(撮影:林正樹)と辻井喬の文章

歌曲

(ひぐらし)

5曲からなる歌曲集(わがうた)の第3曲で、1947年に作曲された。作詞は北山冬一郎。

参考資料

團伊玖磨『歌曲集 = Collected songs』音楽之友社, 昭和33 [1958] 請求記号 F2-349
『團伊玖磨 II』音楽之友社, 1993 請求記号 F18-753
『團伊玖磨歌曲集』音楽之友社, 2001 請求記号 F22-380

録音資料

『團伊玖磨歌曲集』関定子(ソプラノ)、塚田佳男(ピアノ) 請求記号 XD47497 他

(花の街)

1947年作曲。詞は江間章子がNHKの「婦人の時間」の委嘱で、「一日も早く、花咲く街になって欲しい」という夢と希望を託して書き上げた。NHKの「ラジオ歌謡」で放送されると、この歌はたちまち日本中に広まった。

参考資料

『團伊玖磨歌曲集』音楽之友社, 2001 請求記号 F22-380

録音資料

『團伊玖磨歌曲集』関定子(ソプラノ)、塚田佳男(ピアノ) 請求記号 XD47497 他

その他の展示資料

團伊玖磨氏寄贈楽譜目録

1998年5月に團伊玖磨が横須賀市文化振興課に寄贈した自筆楽譜や原稿などの作品の目録。
團伊玖磨は昭和48年から平成13年5月までの28年間を、横須賀市で過ごし、昭和60年に発足した横須賀市文化振興審議会の委員長を務めていた。楽譜の一部は、よこすか芸術劇場のロビーに設けられた「團伊玖磨コーナー」で閲覧ができる。

團伊玖磨著『私の日本音楽史』日本放送出版協会, 1999 請求記号 C64-065
神奈川県芸術文化財団編『Dan year 2000』神奈川県芸術文化財団, 2000 請求記号 C65-400
團伊玖磨著『青空の音を聞いた』日本経済新聞社, 2002 請求記号 J101-508

参考資料

新国立劇場運営財団営業部宣伝課編集『建・TAKERU』新国立劇場運営, 1997 請求記号 C62-392

パネル展示資料

團伊玖磨:

- ・プロフィール用写真
 - ・書斎にて
 - ・パイプのけむり
 - ・パイプとともに
 - ・作曲中
 - ・夕陽と影
 - ・サイン
 - ・團伊玖磨が山田耕筰に贈呈した『夕鶴』の楽譜の表紙
 - ・上の楽譜に書かれた謹呈の言葉 1955年6月
- (c) 撮影: 酒巻俊介 写真提供: 團伊玖磨アーカイヴズ

山田耕筰:

- ・山田耕筰 1925年前後
 - ・山田耕筰、北原白秋、三木露風らと
(1924年10月23日 山田耕筰歌曲発表音楽会後
左より荻野綾子、山田耕筰、深尾須磨子、北原白秋、三木露風)、
 - ・山田耕筰 ショスタコーヴィチと
1931年6月ソ連で黒船の序章を初演。レニングラード音楽院幹部の後方にショスタコーヴィチが見える。彼と山田耕筰の交流はこのときに始まった。
 - ・山田耕筰 黒船
 - ・山田耕筰 黒船 初演お吉長門三保
 - ・ノエル・パーシー(左)
1931年バ里ピギャール座の招きで。歌劇「あやめ」作曲の依頼を受け渡仏。
スケッチを持っているのはミッシェル・ブノア。山田耕筰の後方は大使館員と毎日新聞(?)
 - ・《黒船》序景 自筆譜
 - ・《あやめ》1998年9月27日 日生劇場舞台
 - ・《あやめ》原語初上映時のポスター
- (C)日本楽劇協会

資料・写真提供: 團伊玖磨アーカイヴズ、日本楽劇協会

資料・写真提供の他、様々なご指摘、援助を頂きました。心より御礼申し上げます。

展示パンフレットは図書館ホームページからも入手できます。(バックナンバーも公開しています。)

<http://www.lib.kunitachi.ac.jp/tenji/tenji.htm>